

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-28

学校名・団体名	新潟市立小針小学校
HPアドレス	<a href="http://www.niigata-kobari-e.city-niigata.ed.jp/">http://www.niigata-kobari-e.city-niigata.ed.jp/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	小針防災五人組制度 ～地域と連携した防災教育～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>「小針防災五人組」は、近隣の子どもたちを核として結成し、自治会役員や民生委員、保護者の協力を得ながら集団登下校や避難訓練等で活用していく。子どもを見守る地域や保護者の関係を深めることで地縁を復活させるとともに地域の防災力を向上させ、将来的には地域の一員として積極的に地域防災を担っていく人材を育成するための取組である。</p>	

## 小針防災五人組制度 ～地域と連携した防災教育～

### 1 はじめに

防災の基本は、普段からの生活の舞台である住民の助け合いである。子どもたちの安全においても、地域住民の日ごろからの見守りは欠かせない。しかし、今日、近隣住民同士の関わりがどんどん希薄になってきており、向こう三軒両隣はもはや死語になりつつある。

小針小学校では、これまでの学校中心の防災教育への取組を見直し、東日本大震災の教訓を受け、地域と連携した防災教育や自助共助の精神の育成を図ることをねらいとして26～27年度の防災教育を実践することとした。テーマを「自分の命は自分で守る、みんなの命はみんなを守る子ども」とし、学校から積極的に地域に働きかけ、防災を通して子どもと地域住民が積極的にかかわるシステムを構築する。学校として地域の防災力向上に関わりながら、地域住民が防災意識を向上させ、将来的に近隣住民と協力しながら地域の防災に主体的にかかわる子どもを育てたいと考えた。

### 2 小針小学校の防災教育の特長

#### (1) 関係機関と連携した学・社・民融合の防災教育

新潟市の教育ビジョンの柱である「学社民融合による教育」を推進し、コミュニティー協議会防災部会、西区役所総務課安心安全係、新潟大学地域連携推進センター、新潟西警察署、新潟西消防署等の関係機関との連携を図る。また、コミュニティー協議会や地域住民に積極的に働きかけていくとともに、関係機関と連携した合同防災訓練をしたり、防災の専門家の講演会を実施したりして学校・地域全体の防災意識を高めていく。

#### (2) 「防災五人組」を核とした防災教育

いざ、災害が起こったときに一番頼りになるのが近隣住民による共助である。江戸時代の隣保制度である「五人組」は、年貢を納める相互扶助制度から始まったが、現在でも近所の冠婚葬祭などの助け合い制度として残っている地域がある。「小針防災五人組」は、担当の教職員のリードのもと、近隣の子どもたちを核にしてグループを組織し、自治会役員や民生委員、保護者の協力を得ながら集団登下校を実施したり、地域の危険を確認し、安全な避難方法を学んだりする。さらに子どもたちを見守る地域や保護者の関係が一層深まることを目的とする。近隣住民と児童、保護者が顔見知りの関係を築くことで安全な地域作りや防災力の向上を図り、児童が将来的に地域の安全を担う大人に育つことを期待しながら継続的に取り組む。

### 3 実践

#### (1) 小針小学校防災教育グランドデザインの作成（4月）

地域コミュニティー協議会等の関係機関と連携を図った防災教育を推進していくことを、教職員、保護者、コミュニティー協議会、地域住民に理解を得るため、グランドデザインを作成した。また、新潟大学産学地域連携推進センターの松原教授から、児童を核とした地域の防災力の向上への取組である「小針防災五人組」のアイデアをいただいた。これらをもとに防災教育便りを作成し、保護者や地域住民に配布した。また、学校教職員は、全教育活動を通して積極的に地域とかかわることで、地域の方々との関係をさらに深め、地域と連携した防災教育がより一層推進されるよう努力した。

#### (2) ちゅうでん教育振興助成の採択（8月）

小針小学校の防災教育は平成27年度の「ちゅうでん教育振興助成」に採択され助成金を受けながら実践し、年2回の便りを通して広く市内にも実践を紹介した。



合同防災会議



地域からの避難者



防災講演会

#### (3) コミュニティー協議会防災部との会議（4月～12月）

地域と連携した防災教育を推進していくためには地域コミュニティー協議会との直接的な連携は欠かせない。そこで、小針小学校コミュニティー協議会の組織にある防災・防犯部会（渡辺誠部長）に小針小学校の防災教育の方針を伝え、可能な限りの連携事業を実施していくことを依頼した。その後、小針小学校を会場に、避難訓練、防災訓練の打合せを含めて、年6回の合同会議を行った。

コミュニティー協議会防災部渡辺部長は、熱心に何度も学校に足を運び、細かい計画案を作成した。

#### (4) 地域と合同避難訓練と講演会の実施（6月16日）

50年前に新潟地震が発生した6月16日に、コミュニティー協議会を通して地域住民にも働きかけ、合同で避難訓練を実施した。津波発生を想定し全校児童は屋上へ、約150名の地域住民は2階の多目的ホールに避難した。屋上へ避難した全校児童地域住民も無事に避難訓練終了後に、仙台市東六番丁小学校渡部力前校長を招いての防災講演会を実施した。

#### 【合同避難訓練と講演会の感想】

・投票で訪れない限り小針小学校に入る機会がないので、1年に1回はこういう訓練をすることが大切だと思います。普段から「地域と共に」活動するつみ重ねがあるから成し得た訓練だと思います。階段の右側歩行は、今後も訓練する余地がありました。（地域の方より）

・渡部校長先生のリーダーシップと全体像をつかんだ慌てない姿勢に、避難者の方々は身を任せ、救われた思いだったと思います。今回いただいた知恵をもとに、いざという時の流れを把握し、提案する力を一人一人が持ち合わせて対策を考え、勇気を持って実践しなければと考えさせられました。（保護者）

このように、学校と地域が合同で避難訓練と講演会を実施したことにより、避難訓練の大切さや学校と地域が一つになることの大切さを理解し、地域住民と共に防災意識を高めることができた。

#### (5) 合同防災訓練の実施（9月26日（土））

地域住民と共に災害時の行動を理解し、防災技術を高めることと、地域の避難所を確認するとともに、地域住民と顔見知りになり、お互いに助け合う関係作りを行うことを目的に、コミュニティー協議会で行われている小針地区防災訓練に参画し、全校で参加した。地域での地震発生を想定しているために、それぞれの地域の第一次避難所を決める作業に苦心した。数ヶ月の話し合いの末、自治会ごとの避難所が決まっていた。地域には、地域ごとの避難所を明記した案内が作成され、当日を迎えた。

【訓練の流れ】①朝、地震発生を想定し、地域の避難所に集合する。②地域住民と共に人員を確認し、顔合わせを行う。教職員も担当地域の避難所に向向き、保護者や地域住民とかかわる。③地域住民の見守りのもと五人組で登校する。

④地域住民とともに、防災訓練を実施する。⑤乾パン試食体験

【訓練の内容】・バケツリレー訓練・消化器取扱訓練・濃煙体験・心肺蘇生、AED体験・応急手当訓練・防災ビデオ視聴 児童、保護者、地域住民、教職員が一つになり、消防隊員等の指導のもとでプログラムを体験することができた。



地域住民と取り組んだ訓練の様子

#### 【参加者の感想】

- ・非常の際にすぐ行動するには避難場所の確認や、日々の防災訓練が必要なので、このような機会はとても重要だと思います。(地域)
- ・小学校を会場に、全校児童と地域全体が参加する防災訓練は今回初の試みということですが、これからも地域が一体となった。防災訓練を続けることで、災害に強い小針地区になれると感じました。(保護者)
- ・朝は、地域の人がたくさんいて心強かったです。学校に着いてからも、たくさんの地域の人と体験した防災訓練は楽しかったし、ためになりました。来年もまた体験したいです。(5年児童)
- ・地域の人に見守られている感じがしました。いつも見守ってくれている地域の人と訓練ができてよかったです。わたしも、いざというときは地域の人たちの役に立ちたいです。(6年児童)

「五人組」を起点としながら、それを見守る保護者や近隣住民が顔を合わせ、自治会役員とともに避難場所を確認しながら、家の近いもの同士が顔見知りになる絶好の機会となった。登校後に行った防災訓練も、地域住民と児童が力を合わせ防災技能を高めただけでなく、学校と地域が防災を軸に強く結び付くことができた訓練となった。

【成果】・地域の避難所を確認することができた。・五人組をもとに、家の近い児童、保護者、地域住民が顔見知りになり、関係を深めた。・避難所に向いた教職員にとっても、地域の避難所を確認し、地域を知る機会となった。・地域住民と共に防災の知識・技能を身に付けた。

【課題】・19自治会のうち2つの自治会が訓練に参加しなかった。全自治会が参加できるようにコミュニティ協議会を通して働き掛けていく。(ここまでの活動を振り返って(中間評価)) ちゅうでん教育振興助成からの助成金は、防災講演会の講師謝礼や、合同防災訓練の物品費、便りの印刷費等に充てることができた。

#### (6) 住んでいる地域の危険を知る避難訓練(1月13日)

小針地区は土地の高さが低く、場所によっては、海拔0mからマイナスになる地点もある。学校の周辺も0m地帯で、過去には大雨が降ると冠水する被害も発生している。信濃川から遡ってくる津波による被害も懸念される地域である。一方砂丘地帯では大雨による土砂災害が懸念され、越後線も不通になることがある。ハザードマップを活用し、自分が住んでいる地域の危険について知り、五人組で危険箇所や避難場所を直接確認することで、地域の特色に応じた自分の命を守る行動を考えさせる。小針地区のハザードマップ

【訓練の内容と実際】①西区役所総務課安心安全係職員が、小針地区のハザードマップを分かりやすく説明し、全校児童が危険地域を確認した。②「五人組」がマップ上で避難場所と集合場所を確認した。③五人組による集団下校で、実際に避難場所や集合場所を確認した。

【児童の感想】・ハザードマップで見ると、自分の家の周りの大雨や洪水の時の危険な場所がよく分かった。・実際に歩きながら確認すると、地図では分からない高い建物が確認できた。・自分の家のあたりは、20分以内に津波が到達するので早く避難しなければならないことが分かった。

【成果】・ハザードマップについて知り、地域の危険箇所、避難場所、安全な場所を確認することができた。・上級生のリーダーで、五人組の関係が深まった。

【課題】・今後、さらにマップの見方を養って行く必要がある。今年度も安全マップを活用して実施する。



防災五人組で危険箇所を確認しながら下校

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果として得たこと

###### 【防災意識の高まりが見られた】

・地域と連携した防災教育を行うために、常にコミュニティ協議会の役員と打合せを行ったり、多くの地域住民が小針小学校へ足を運んだりしながら避難訓練や防災訓練を実施した。その結果、学校と地域住民の距離が縮まり、お互いの防災意識が高まった。

###### 【地域の安全を学びながら、お互いの関係が深まった】

・五人組を活用し、集団登下校を始め、地域の危険箇所や避難場所を確認する活動を行った。その結果、自分の住んでいる地域の安全について学ぶ中で、家が近い児童同士や、それを見守る地域住民や保護者の関係が一層深まった。

##### (2) 課題

###### 【全ての地域に広げるには】

・自治会にも温度差があり、コミュニティ協議会からの要請に応じない自治会もあった。今後も学校地域の防災意識が高まる働き掛けを継続していく。

##### (3) 今後に向けて

###### 【教職員と地域の関係をさらに深めていく】

・取組を通して地域との深まりを実感できた。今後も、地域を知り、地域との関係が深まる教育活動を意図的に教育課程に取り入れることで、地域との関係を深めるようにする。

###### 【防災五人組を継続させ、活動の幅を広げていく】

・防災五人組の活動の場を広げるために、遠足や児童会行事などの学校の教育活動の中で積極的に取り入れ、楽しみながら関係が深まるよう配慮する。

・地域と連携し、五人組による地域の調査活動をもとにしながら、地域防災マップづくりを行っていく。



学校地域合わせて1200人が参加した合同訓練